

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

FACT-X標準アプリケーション「係員レシート印刷削減機能」

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



FACT-X標準アプリケーション

金融機関向けATM FACT-Xの標準アプリケーションは、従来機のFACT-Vとは異なり、お客様毎のアプリケーション開発は行わず、共通アプリケーションに必要な最低限のカスタマイズを実施して導入するATM向けシステムです。従来機では、係員がATMの現金管理に必要な処理を実施した際にレシートを自動で印刷していましたが、当アプリケーションでは、必要最低限のレシートを選択して印刷できる機能を搭載しました。これにより、レシート紙の使用量を削減でき、結果としてCO₂排出量の削減にもつながります。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



「係員レシート印刷削減機能」による業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「係員レシート印刷削減機能」は、金融機関向けATM FACT-Xの標準アプリケーションに搭載された機能です。

従来機のFACT-Vでは係員がATMの現金管理に必要な処理を実施した際に、処理結果と詳細結果（I/O精査などの紙幣精査や硬貨精査）のレシートを自動で印刷していました。一方、FACT-Xでは、画面上の『印刷』ボタンを押して印刷を行う仕様に変更するとともに、詳細結果のレシートは、画面上で「印刷しない」を選択できる機能を搭載しました。

これにより、レシート印刷枚数を必要最低限とし、紙資源が節約できます。また、結果としてCO₂排出量の削減にも貢献します。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約29% ※富士通フロンテック試算

・レシート印刷枚数の削減

ATMの現金管理に必要な処理（自動精査、現金回収、現金補充、1ヶ月あたり各1回）を実施した際のATM1台あたりのレシート印刷枚数/月を比較、現金の回収・補充時の詳細結果を印刷せずに、電子ジャーナルの記録を作業証跡として確認する運用とした場合の削減効果を試算。

レシート印刷枚数の比較：

【導入前】自動精査(26枚/月)、現金回収(9枚/月)、現金補充(7枚/月) 合計42枚/月

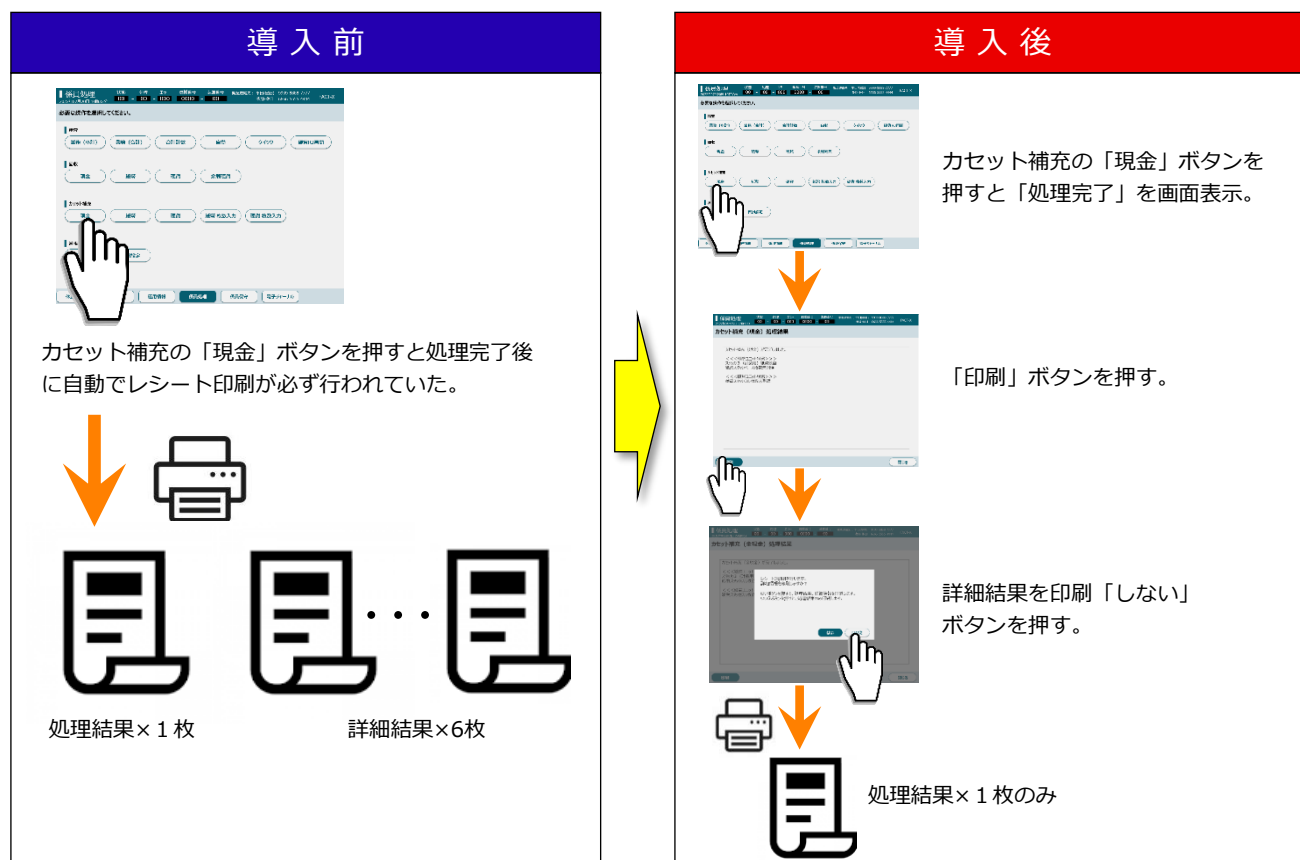
【導入後】自動精査(26枚/月)、現金回収(3枚/月)、現金補充(1枚/月) 合計30枚/月

⇒ATM 1台あたり12枚/月の削減効果

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おください。

FACT-X標準アプリケーション「係員レシート印刷削減機能」により、何故、レシート印刷が削減されるのか？

係員が行った現金の回収・補充処理の詳細結果は画面上でレシートに「印刷しない」を選択し、電子ジャーナルでの記録確認で代替することで、レシート印刷枚数を削減できます。(以下は現金の補充処理を行った際の事例です。)



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

ファイナンス&リテール事業本部 第一ソリューション事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>